

第1回 まつだ移住相談所会議 議事要旨

日時：令和3年9月30日（木）

午後1時～午後4時

場所：松田町役場4階4B会議室

1 開会の挨拶 松田町から

2 メンバー紹介 各メンバーの自己紹介

3 グループワーク-1

(テーマ) 「10年後の地域はどうなっている？」(グループディスカッション40分)

松田地区のグループ、寄・湯の沢地区のグループに分かれて実施した。

【松田地区のグループのグループディスカッション要旨】

このままの状態が進めば10年後には、

- ・駅前でも空き家が増えていくだろう。シニアの夫婦や独居世帯が多く、空き家は確実に増えていく。
- ・新しい学校を作ったが子どもが減っていくとどうなってしまうだろう？素晴らしい学校だからこそ、それを武器に子育て世代を呼び込まないと。
- ・地域コミュニティが維持できない。移住してくる人も地域コミュニティとのコンタクトは難しそう。どこに声かけて良いのかもわからないなど。

→私の住む自治会ではシニア世代がその子ども世代(40代)を集めて交流する機会を設けたところ、それがキッカケで子ども世代が交流を始めた。コミュニティ維持のためには非常に良かったが、他の自治会ではそういう事例がないようだ。

【寄・湯の沢地区のグループのグループディスカッション要旨】

○現状

- ・移住を希望する方がいても家や土地が見つからない。
- ・子どもが少ない。(寄小学校は全校生徒22人)
- ・昔からの家も、子どもが出て行った後に、次の代につながらない。
- ・昔からの家にお嫁さんが来ない(独身が多い)。
- ・寄地区から人が出て行っている。
- ・昔からのコミュニティの人間関係は濃密。反面で外からは閉鎖的と思われることかも。

○寄に起きていること

- ・寄アクティビティ会(地域体験プログラムなどが活発化)
- ・寄七つ星ドッグラン(東京、横浜、川崎など遠方から沢山のお客さまが来ている)
- ・NPO仲が発足(里山の木を活かした再生可能エネルギーの利用)
- ・さとうち、たな一たん、笑むの家などの新たなお店ができた。

○これから

寄に移住を希望する人には「自然を感じる暮らし」や「共通の価値観を持った人とのつながり」を求める人がいる。今後、関係人口が増え、人が人を呼び、その中の何人かが寄に定住していくのでは。

グループ発表を通してのメンバーの所感・質疑の要旨

- 駅前再開発で人が増えるのではないか。
- 人口を増やすための取り組みが必要。小学校のことも同様で、町の魅力を発信していかないといけない。
- 空き家等の所有者が、物件を地域活性化のために利活用しようという気持ちになることが重要。東京、横浜等都会からの人の流れがあり、物件のニーズがある。
- 駅前の道が狭いことや子どもが安心して遊べる場所の有無も大切。
- 移住者が増えるかどうかは建物よりも人が大切。住民が地域を好きであることが魅力を生む。
- 地域内の情報不足があると気づいた。寄であれば管理センターが住民交流のためにもっと機能してほしい。寄でも色々な活動があるが、昔から寄に住んでいる人は余り活動に加わっていない様に感じる。
- 昔から寄に住んでいる人は、意外と寄に移住してきた方が実施している活動の内容を知らない。
- 空き家の活用という意味では、どの物件が利活用できるのかを明確にするための調査が必要。空き家に見えても家族や親族が定期的に手入れをしていることが多い。
- 松田と寄と今回は区別して議論したが、町民自身が町内のことを知らないことが多い。地域交流する機会が必要。
- 交流といっても寄の子どもが松田に行くことはあっても逆は稀。
- 移住相談のマッチングをしているとき、農家住宅と言うことで破談になったケースがあり、物件も利活用できるか否かが分からなかったりすることがある。
- 農家の一軒家や敷地内に別宅を建てるケースがあるが、神奈川県では条例により賃貸借、売買が禁止されており、知らぬ間に条例違反を犯してしまうケースもある。そのためには、条例を改正していく必要がある。
- 建築基準法の接道義務条項も、田舎では土地の活用を制限することがある。

4 ディスカッション-1

(テーマ) 「持続可能なまちづくりと空き家対策について」 (別紙資料)

町の人口動態や移住対策の取り組み、本事業の狙いを町担当者より説明し、そのご質疑を行なった。

- 借地の上に家がある場合、今後誰かに売る、貸す場合に誰に相談したら良いかわからない。
- 借地の場合、借地権を整理しなければならない。
- 利活用を決心した場合、町として相談に乗ることは可能か？
- 町では弁護士による法律相談を実施しており、そちらを紹介する。
- 利活用については土地、建物の資料があると相談に乗り易い。それらが無いと情報を集めねばならず、そうなるとお金も掛かることになる。
- 「私が元気なうちは良いんだけど」のタイミングでやらないと、子ども、孫の代になると家の活用はどんどん大変になるよ、ということを伝える必要はある。

以 上